

2015年度・所員活動報告

2015 Research Reports

（2015年4月1日～2016年3月31日）

氏名・専門領域	浅井 春夫 ●社会福祉学，セクソロジー
著書	1) 浅井春夫（2016）『沖縄戦と孤児院』吉川弘文館。 2) 浅井春夫（2015）「深刻化する子どもの貧困に抗して、何をなすべきか」日本子どもNPOセンター編『子どもNPO白書2015』エイデル研究所。 3) 浅井他共著（2015）『戦争と福祉についてボくらが考えていること』本の泉社。
論文	1) 浅井春夫（2015）「戦争をする国・しない国の分岐点」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第3号，pp.137-156 立教大学。 2) 浅井春夫（2015）「戦後70年 沖縄戦の『戦死者』と慰霊の意味を問うー戦没（者）をめぐる政治学」『まなびあい』第8号，pp.98-115 コミュニティ福祉学会。
学内・学外における社会的活動等	1) “人間と性” 教育研究協議会代表幹事 2) 『季刊SEXUARITY』編集委員 3) 全国保育団体連絡会副会長 4) 日本思春期学会理事 5) NPO 法人学生支援ハウスようこそ理事・事務局長 6) 戦争と福祉を考えるみんなの会代表呼びかけ人 7) 安全保障法に反対する立教人の会共同代表・呼びかけ人 8) 「戦争孤児の戦後史研究会」設立準備代表委員

氏名・専門領域	安藤 佳代子 ●障がい者スポーツ，アダプテッドスポーツ
学会発表	Ando, K. Sakurai, S. (2015) "Differences in static friction between tennis wheelchair tires and court surfaces", 20th International Symposium of Adapted Physical Activity 11-15 June 2015, The Zinman College -Israel.
学内・学外における社会的活動等	1) 第26年度スポーツ庁委託事業「障害のある児童生徒の体育活動における指導のあり方調査研究」国外先進調査ワーキンググループ 2) 日本体育協会 地域スポーツクラブ育成専門委員会委員 3) 日本オリンピック・アカデミー セッション&レクチャー委員会委員 4) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事 5) 日本車いすテニス協会理事 6) 日本障害者スキー連盟常任理事 7) 科学研究費助成金 若手研究 (B) 「テニスコートの違いによる競技用車椅子の摩擦抵抗」，研究代表者，2012年-2016年

氏名・専門領域	飯村 史恵 ●権利擁護論, 福祉マネジメント論
著書	飯村史恵 (2015)「社会福祉協議会におけるスーパービジョン」日本社会福祉教育学校連盟監修『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版.
論文	飯村史恵 (2015)「ソーシャルワークの観点からみる成年後見制度の展望～障害者権利条約第12条で問われているもの」『コミュニティ福祉研究所紀要』第3号, pp.79-97 立教大学.
資料・研究ノート等	1) 飯村史恵 (2015)「社会福祉協議会」精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書2016 一精神科医療と精神保健福祉の協働』中央法規出版. 2) 飯村史恵 (2016)『日常生活自立支援事業に関する研究—利用者の自己決定とコミュニティワークからの考察報告書』(平成25～27年度JPSP科研費挑戦的萌芽研究 研究代表者飯村史恵 課題番号25590145).
学会発表	1) 飯村史恵 (2015)「障害者権利条約第12条と成年後見制度の課題—社会福祉協議会の役割を考える」日本地域福祉学会, 仙台, 6月. 2) 飯村史恵 (2015)「福祉サービスの情報活用における本人『同意』について」日本福祉介護情報学会, 川崎, 11月.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区民活動支援事業補助金審査委員会委員長 2) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員, 権利擁護センター運営委員会副委員長 3) 文京区社会福祉協議会地域福祉計画推進委員会委員 4) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員 5) 埼玉県地域福祉推進委員会委員 6) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会副委員長 7) 滝乃川学園権利擁護委員会委員・公益通報者保護委員会委員、救護施設あかつき・社会福祉法人共働学舎第三者委員 (オンブズマン) 8) 日本福祉介護情報学会理事 9) 一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟監事 10) 一般社団法人日本社会福祉学会広報委員会委員 11) 特定非営利活動法人さぼーと理事 12) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報理事

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 発育発達
著書	石渡貴之 (2015)「第10章 自律神経系, 第11章 脳」須田和裕 (編), 『生理学 (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)』化学同人.
論文	1) Matsumura, T., Nakagawa, H., Suzuki, K., Ninomiya, C., Ishiwata, T. (2015) "Influence of circadian disruption on neurotransmitter levels, physiological indexes, and behaviour in rats, <i>Chronobiology International</i> , 32(10), 1449-1457. 2) Kotani, Y., Ohgami, Y., Ishiwata, T., Arai, J., Kiryu, S. Inoue, Y. (2015) Source analysis of stimulus-preceding negativity constrained by functional magnetic resonance imaging, <i>Biological Psychology</i> , 111, 53-64.
資料・研究ノート等	石渡貴之 (2015)「生活習慣と体温リズムの関係」中学保健ニュース, 2016年3月.
学会発表	石渡貴之, 嘉瀬貴祥, 橋本典子, 馬場智志, 寺西健二, 小澤智子, 森本茂 (2015), 「ICT機器を用いた小学生の体力及びメンタルヘルス向上への試み」, 第70回日本体力医学会, 和歌山, 9月.
学内・学外における社会的活動等	(社会的活動) 1) 日本体力医学会 評議員 2) 日本生理学会 評議員 3) 公益社団法人 全国大学体育連合 研修部 副部長 4) 新座市健康づくり推進協議会 委員

学内・学外における 社会的活動等	5) 府中市立南町小学校 スクール・コミュニティ協議会 委員 6) 新座市民総合大学 健康推進学部 コーディネーター (講演会) 1) 清瀬市健康大学, 第1回講演会「脳のメンテナンス～体温・運動・睡眠の関 係～」2015年5月 2) 座間市立立野台小学校, 第2回成人教育講座, 「脳のコンディショニングと 子どもの心と体～今日から始める質の良い睡眠の作り方～」2015年11月 (研究活動) 1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C「自発運動が体温調節及び視覚前野/前 視床下部の脳内神経伝達物質に及ぼす影響」(2014-2016) 2) 小学生の体力及びモチベーション向上に関する実証的研究～産学官連携健康 教育～ (2014-2016)
---------------------	--

氏名・専門領域	今西 平 ●コンディショニング科学
論文	今西平 (2016)「疾走運動課題を対象とした自己と他者の運動努力度の対応関係 —運動共感に着目して」『身体運動文化論攷15』pp.83-97.
学会発表	1) 今西平, 出井章雅, 梅林薫 (2015)「跳躍・疾走運動のグレーディング能力 と運動能力の関係」日本体育学会第66回大会, 東京, 8月. 2) 今西平, 梅林薫 (2015)「テニスのサービス試技に対する主観的評価とEMG による筋活動の対応関係」第27回テニス学会, 鹿児島, 12月.

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学, スポーツ心理学
論文	1) 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2015) 大学生におけるタイプA行動様式および首尾一 貫感覚 (SOC) が抑うつ傾向に与える効果の検討. パーソナリティ研究 24 巻2号 pp.38-48. (査読有). 2) 遠藤伸太郎, 大石和男 (2015) 大学生における抑うつ傾向の効果的な低減に 向けた検討—友人のサポートと生きがい感の観点から—. パーソナリティ研 究 24巻2号 pp.102-111. (査読有). 3) 坂内くらら, 大石和男 (2015) 日本人音楽専攻大学生の抑うつ傾向と演奏不 安. 学校メンタルヘルス 第18巻2号 pp.1-9. (査読有). 4) 遠藤伸太郎, 和秀俊, 大石和男 (2015) アスリートの競技力向上および人と しての成長を促すポジティブ心理学からのアプローチ —謙虚な思考に注目 して—. 2014年度笹川スポーツ研究助成報告書 pp.299-305 (査読有). 5) 矢野麻梨奈, 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2015) SOCはタイプA行動様式の危険 因子を抑制するか. 立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第8号 pp.147-162 (査読無). 6) 木村駿介, 大石和男 (2015) 認知的対処方略の採用傾向とパーソナリティお よび過剰適応との関連. 立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第8 号 pp.112-122. (査読無).
資料・研究ノート等	嘉瀬貴祥, 坂内くらら, 大石和男 (2015) 大学生におけるライフスキルの特徴に ついての探索的検討 —精神的健康の向上を目的としたライフスキル教育の観点 から—. 学校保健研究, 第57巻5号 pp.246-256. (査読有).
学会発表	1) TANAKA, T., HOSHINO, R., YOSHIMURA, Y., YASUKAWA, M. & OISHI, K. (2015) Elbow angle changes during the underwater stroke phase in sprint-assisted training for competitive swimmers. (June 24-26, 2015). 2) 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2015) 攻撃性の高低からみた大学生におけるライフス キルの特徴. 日本パーソナリティ心理学会, 於札幌, 2015年8月21日. 3) 木村駿介, 大石和男 (2015) 日本パーソナリティ心理学会, 於札幌, 2015年

学会発表	<p>8月21日.</p> <p>4) 坂内くらら, 遠藤伸太郎, 大石和男 (2015) 音楽専攻学生における心理的競技能力と演奏場面の「あがり」反応について～大学生スポーツ競技者との比較から～. 第28回健康心理学会, 於東京, 2015年9月5日.</p> <p>5) 嘉瀬貴祥, 木村駿介, 大石和男 (2015) 居住地域の違いからみた成人におけるライフスキルの特徴. 第28回健康心理学会, 於東京, 2015年9月5日.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 2015年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師, 「運動・食・行動の習慣からいきいき生活を考える」今日から始めるいきいき生活. 於埼玉県県民総合活動センター 2015年6月7日</p> <p>2) 2015年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師, 「ストレス管理と生きがいからいきいき生活を考える」今日から始めるいきいき生活. 於埼玉県県民総合活動センター 2015年6月14日</p> <p>3) 平成27年度スポーツ振興くじ助成事業「スポーツ・レクリエーション指導者養成講習会」講師, 「スポーツ・レクリエーション心理学」. 於石川県地場産業振興センター 2015年7月25日</p> <p>4) 平成27年度スポーツ振興くじ助成事業「スポーツ・レクリエーション指導者養成講習会」講師, 「スポーツ・レクリエーション心理学」. 於渋谷区東京体育館 2015年9月5日</p> <p>5) 2015年度 生活趣味講座 (セルフカウンセリング入門講座1): 社会的知能 (ソーシャルインテリジェント). 於埼玉県県民活動総合センター 2015年9月6日</p> <p>6) 2015年度 生活趣味講座 (セルフカウンセリング入門講座2): コミュニケーションスキル. 於埼玉県県民活動総合センター 2015年9月13日</p> <p>7) 2015年度 生活趣味講座 (セルフカウンセリング入門講座3): リラクゼーションスキル. 於埼玉県県民活動総合センター 2015年9月20日</p> <p>8) 2015年度 生活趣味講座 (セルフカウンセリング入門講座4): タイプA行動様式. 於埼玉県県民活動総合センター 2015年9月27日</p>

氏名・専門領域	大山 早紀子 ●精神保健福祉領域
著書	<p>1) 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2015) 「精神保健福祉相談援助の基盤、精神保健の課題と支援」『精神保健福祉士国家試験模擬問題集2016』中央法規出版株式会社.</p> <p>2) 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2016) 「精神保健福祉士シリーズ5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版第7章4」株式会社 弘文堂.</p>
論文	大山早紀子, 大島巖 (2015) 「精神障害のある人が孤立することなく地域での生活を継続するための精神科デイケアと訪問支援を統合した地域ケアモデルの開発の可能性」『ソーシャルワーク学会誌』第30号, pp.13-26.
資料・研究ノート等	一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2015) 「平成27年度精神保健福祉士全国統一模擬試験 2015 精神保健福祉相談援助の基盤」.
学会発表	<p>1) 大山早紀子 (2015) 「精神科デイケア&訪問支援統合化プログラムにおける実践家参画型開発評価の成果と課題」第32回日本ソーシャルワーク学会, 東京, 7月.</p> <p>2) 大山早紀子, 大島巖 (2015) 「精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラムの開発と実践での応用可能性の検討—統合プログラム取り組み度調査の結果から—」日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会, 高知, 12月.</p> <p>3) 大山早紀子, 下園美保子, 大島巖 (2016) 「精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラムの開発評価の可能性の検討—フィデリティ得点の分布から—」第35回日本社会精神医学会, 岡山, 1月.</p>

学内・学外における社会的活動等	1) 地域活動支援センター窓の会 アドバイザー 2) リカバリー全国フォーラム2015「デイケアの躍進!! ～多機能・多種多様なプログラムを実施するデイケア～」コーディネーター 3) 文部科学省科学研究費補助金若手研究B「重度精神障害者を対象とした精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラムの効果評価」（平成27年度～平成29年度・研究代表者：研究課題番号15K17227）
-----------------	--

氏名・専門領域	岡田 哲郎 ●地域福祉，コミュニティワーク，民俗としての福祉論
著書	1) 岡田哲郎（2016）「地域福祉」芝田英昭編著『増補改訂 基礎から学ぶ社会保障』自治体研究社。 2) 岡田哲郎（2016）「石巻交流プログラム」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室著『復興支援ってなんだろう？ 人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社。
資料・研究ノート等	岡田哲郎（2015）「コミュニティ福祉と希望—私たちはいかに希望をつなぎ、育めるのか—（第7回まなびあい企画講演会・シンポジウム報告）」『まなびあい』第8号，pp.11-48 立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局。
学内・学外における社会的活動等	1) 日本社会福祉学会関東部会運営委員会運営委員 2) ふじみ野市地域福祉計画審議会副会長 3) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会運営委員（地域ささえあいネット担当） 4) コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト「地域の宝探しプロジェクト（北野地域編）」 5) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会主催「地域の宝探しワークショップ」ファシリテーター 6) 東京都社会福祉協議会主催社会福祉士国家試験対策講座「地域福祉と福祉計画」講師 7) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト（石巻拠点、学生支援担当）

氏名・専門領域	岡 桃子 ●子ども家庭福祉，子育て支援におけるコミュニティ・アプローチ，児童虐待における予防的介入
著書	岡桃子（2016）「子ども家庭支援センターにおける連携と協働—児童虐待通告への対応を中心に」箕口雅博編『コミュニティ・アプローチの実践—連携と協働とアドラー心理学—』遠見書房。
学内・学外における社会的活動等	1) 八王子市子ども家庭支援センター 子ども家庭相談支援員（子ども家庭支援ワーカー及び専門相談員：社会福祉士） 2) 学校法人松山学園松山福祉専門学校 非常勤講師 3) 立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科「社会福祉援助技術演習1・2」ゲスト講師（2015年12月7日） 4) 秋草学園短期大学「児童家庭福祉」～児童家庭福祉の専門職～ ゲスト講師（2015年12月15日） 5) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会地域ささえあいネット特別勉強会「八王子市における虐待対応と子育て支援の現場から」ゲスト講師（2016年3月1日）

氏名・専門領域	加藤 晴康 ●スポーツ医学, 整形外科
著書	1) 加藤晴康 (2015)「ジュニア選手のコンディショニング—下肢傷害予防」『こどものスポーツ外来』田中康仁・笠原良爾編 日本病院出版会. 2) 佐保泰明・加藤晴康・中堀千香子・馬越博久・福林徹 (2016)「ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み—第3報—各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証2—1. サッカー」『平成27年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告』福林徹編, 日本体育協会.
論文	1) 川井謙太郎, 舟崎裕記, 林大輝, 加藤晴康, 沼澤秀雄 (2016)「投球障害肩における肩関節2nd内旋制限に対するセルフストレッチ方法の比較:—即時効果判定—」『理学療法科学』31 (1), pp.13-17. 2) 川井謙太郎, 舟崎裕記, 林大輝, 加藤晴康, 沼澤秀雄 (2016)「野球投手における上腕骨頭後捻角度を考慮した肩回旋可動域:—有症状群と無症状群の比較—」『理学療法科学』31 (2), pp.309-313.
学会発表	1) 佐保泰明, 馬越博久, 加藤晴康, 中堀千香子, 岩田清志, 島田真梨子, 中條智志, 松木仁志, 池田浩, 福岡重雄, 宮川俊平, 森川嗣夫, 立石智彦, 土肥美智子, 福林徹 (2015)「ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み—サッカー」第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 11月. 2) 立石智彦, 池田浩, 福岡重雄, 宮川俊平, 森川嗣夫, 松本秀男, 谷諭, 島田和典, 土肥美智子, 加藤晴康, 福林徹 (2015) 全国高等学校サッカー選手権大会での外傷・障害調査報告 第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 11月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本サッカー協会医学委員会委員 2) 九州保健福祉大学非常勤講師 3) 中央大学非常勤講師 4) 聖マリアンナ医科大学運動器講義 5) 東京医科歯科大学教養部倫理委員会委員 6) 慈恵会医科大学付属病院スポーツウェルネス外来非常勤医師 7) 立教大学新座保健室にて整形外科相談 8) 日本サッカー協会 (JFA) アカデミー福島 サポート統括医師 9) U22男子サッカー・リオオリンピック候補選手国内トレーニング合宿・帯同医師 10) U17男子サッカー日本代表選手 ベラルーシ遠征 帯同医師 11) サッカー J3リーグU22 選抜チーム 帯同責任ドクター 12) JFA フットボールフューチャープログラムU12 帯同医師 13) FIFA クラブワールドカップ Local Organizing Committee Doctor 14) JFA-A級U12コーチライセンス・医学講義 15) JFA-A級U15コーチライセンス・医学講義 16) JFAnews2015年12月号 特集・キッズ年代の健康管理とメディカル 17) JFA テクニカルニュース 学ぼうメディカルの知識—栄養とサプリメント— 18) JFA テクニカルニュース 学ぼうメディカルの知識—食事と睡眠— 19) JFA テクニカルニュース 学ぼうメディカルの知識—心臓震盪— 20) JFA テクニカルニュース 学ぼうメディカルの知識—睡眠について— 21) JFA 医学委員会年次報告書—Jリーグ・Fリーグ・Lリーグ2015年度シーズン外傷報告書— 22) JFA 医学委員会年次報告書—J3リーグU22選抜チーム2015年度メディカル報告書— 23) JFA 医学委員会年次報告書—JFA アカデミー福島・宇城・堺・今治メディカル報告書 24) 社会医学技術学院・講演—足部・足関節の外傷 25) 第一生命財団機関紙POSTURE No.42—特集・障害スポーツの現状と課題 (座談会) — 26) Football College (ユニバーサルスポーツジャパン) お父さんのためのジュニアサッカー育成講座VOL. 2—ジュニア世代の発育に伴う障害と予防—

学内・学外における社会的活動等	27) Pigeon株式会社との共同研究結果により「育ち応援シューズ」ベビーシューズを開発・販売へ
-----------------	---

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学，持続可能な福祉コミュニティ
著書	KUGA, Atsuki (2016) Towards a sustainable future: the bioethics of sustainable living vis-à-vis the bioethics of Fritz Jahr, <i>Fritz JAHR (1895-1953) – From the ORIGIN of BIOETHICS to INTEGRATIVE BIOETHICS</i> , Chapter 8 (pp.111-130).
論文	1) 「有機」の再確認から始める地域活性化（単著）（2016）『まなびあい』（5），pp.70-78. 2) F. ヤール「バイオ-ティック（バイオ-エシックス）」他3論文翻訳（共著：空閑厚樹，若林明彦）（2016）コミュニティ福祉研究所紀要（3）pp.157-173.
学内・学外における社会的活動等	1) KAFIN (Kalipunan ng mga Filipino Nagkakaisa) 理事 2) Global Ecovillage Network-Japan 副代表

氏名・専門領域	熊上 崇 ●心理学（とくに司法領域），発達障害学
著書	熊上崇（2016）「自治会・現地中間支援組織・大学等の連携によるコミュニティ形成支援（いわき交流プログラム）」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室編著『復興支援ってなんだろう』（分担執筆pp.141-149）本の泉社.
論文	1) 熊上崇（2015）「公立高校1年生の数学習熟度別クラスにおけるKABC-IIの実施とフィードバック」, KABCアセスメント研究 第17巻, pp.23-32.（査読あり）. 2) 熊上崇（2015）「東日本大震災の被災地コミュニティに対する大学生の関心と支援～福島県いわき市での実践を通じて」立教大学コミュニティ福祉研究所紀要 第3号, pp.19-38.（査読なし）. 3) 熊上崇（2015）「福島原発事故とコミュニティ～福島県双葉町社会福祉協議会との交流を通じて～」立教大学コミュニティ福祉学部紀要 第18号, pp.27-40.（査読なし）.
学会発表	1) 熊上崇（2015）「心理発達検査の検査結果を，子どもや保護者にどのように伝えるか」第18回日本K-ABCアセスメント学会，奈良，8月. 2) 熊上崇（2015）「日本版KABC-IIの学習アドバイスシートの作成」第24回日本LD学会，福岡，10月.
学内・学外における社会的活動等	1) 新座市教育委員会，新座市いじめ問題対策連絡協議会委員 2) 日本KABCアセスメント学会 理事・初級講習会講師 3) 東京都立中野特別支援学校 外部専門家によるケース相談 4) 公益財団法人家庭問題情報センター鑑定部 5) 東京都立豊島高校 職員研修会講師「発達障害を有する非行事例の支援」 6) 新座市第六中学校 全校生徒へのふれあい講演会講師「東日本大震災とコミュニティへの支援」 7) 科学研究費補助金（基盤研究C）「司法領域におけるアセスメントとフィードバックの研究」, 研究代表者，2015-2017年度

氏名・専門領域	小長井 賀與 ●司法福祉，犯罪社会学，修復的司法
著書	1) 小長井賀與（2015）「刑事司法と修復的司法の機能に関する一考察」西村春

著書	夫・高橋則夫編『修復的正義の諸相』成文堂。 2) 小長井賀典 (2016)「更生保護と社会福祉」藤本哲也・生島浩・辰野文理編『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房。
論文	1) 小長井賀典 (2015)「イギリスの保護観察と犯罪者の社会的包摂」『更生保護学研究』第7号, pp.91-98 日本更生保護学会。 2) 小長井賀典 (2015)「非行少年の立ち直りと成長・発達」全少協少年研究所叢書27『少年問題シンポジウム 進学・就労機会づくりによる積極的な立ち直り支援』, pp.12-40 公益社団法人全国少年警察ボランティア協会。
学会発表	1) Kayo Konagai (2015) “Desistance Needs of Young Offenders in Japan and the Countermeasures” The 2 nd World Congress on Community Corrections, Los Angeles, US, 7月。 2) 小長井賀典 (2015)「イギリスにおける少年司法制度」, 日本更生保護学会第4回大会企画セッション3『少年・若年者に対する少年法制の比較法的検討～更生保護の視点から～』, 横浜, 12月。
学内・学外における社会的活動等	講演・講義等 1) Kayo Konagai (2016) “Multi-agency Collaboration in Community-based Treatment of Offenders in France”, Lecture at the 162 nd International Senior Seminar of the United Nations Asia and Far East Institute for the Prevention of Crime and the Treatment of Offenders, 国連アジア極東犯罪防止研修所, 東京, 1月 2) 小長井賀典, 基調講演「非行少年の立ち直りと成長・発達」, 全国少年警察ボランティア協会少年問題シンポジウム『時代を担う少年の育成のために進学・就労機会づくりによる積極的な立ち直り支援』, 東京, 11月 学会活動 1) 司法福祉学会理事, 同学会誌編集委員長 2) 更生保護学会常務理事 3) 犯罪社会学会常任理事 社会的活動 1) 更生保護法人・全国更生保護法人連盟評議員 2) 更生保護法人・更生保護振興財団評議員 3) 保護司月刊研修誌「更生保護」編集委員

氏名・専門領域	権 安理 ●公共哲学, コミュニティ理論
著書	1) 権安理 (2015)「グローバリゼーション」経済社会学会編・富永健一監修『経済社会キーワード集』ミネルヴァ書房。 2) 権安理 (2016)「善きことの交換、分配、共有——コミュニティ支援を概念から考える」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室編『復興支援ってなんだろう?——人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社。
論文	1) 権安理 (2015)「『公共的なもの』の概念と展開——アーレントの思想の再検討と、戦後日本における『公共的なもの』の変容」早稲田大学審査学位論文 (博士), 早稲田大学大学院社会科学研究科。 2) 権安理 (2015)「『動物化』時代における公共性をめぐって——質料的公共性の可能性」『社会科学総合研究』第16巻 第1号 pp.179-191 早稲田大学。 3) 権安理 (2016)「廃校の可能性と芸術の公共性——アトススペースとしての廃校活用」『コミュニティ福祉学部紀要』第18号 pp.41-55 立教大学。
資料・研究ノート等	権安理 (2015)「『公共的なもの (“the public”)』の概念をめぐって——公共性の思想、歴史、具体的展開の研究」『まなびあい』第8号 pp.166-194 立教大学。
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学社会学部兼担講師 2) 立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト

氏名・専門領域	坂無 淳 ●社会学, ジェンダー研究
著書	長倉真寿美・岡田哲郎・坂無淳（2016）「石巻プログラム：高齢者福祉、地域福祉の知識や経験を駆使して——実務担当者からの解説」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室『復興支援ってなんだろう？——人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社, pp.121-127.
論文	1) 坂無淳, 北澤泰子, 空閑厚樹（2016）「大学教育におけるファシリテーション（2）——スキルの習得と実践（立教大学とお茶の水女子大学を事例に）」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第18号, pp.57-74 立教大学. 2) 佐藤壮広, 河東仁, 坂無淳（2016）「大学教育におけるファシリテーション（3）——アウトプット（作品化）の事例を中心に」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第18号, pp.75-91 立教大学.
学会発表	1) 坂無淳（2015）「子育ての共同・子育て支援とコミュニティ」第63回（2015年度）北海道社会学会大会, 旭川, 6月. 2) 坂無淳（2016）「団地コミュニティにおける共同保育の開始・継続の条件——新座団地の事例から」第11回戦後保育運動史研究会, 東京, 3月.
学内・学外における社会的活動等	1) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト（石巻拠点） 2) 坂無淳（2016）「ハラスメントとジェンダーの深く怖い関係」茅ヶ崎市人権を考える市民の集い講師, 茅ヶ崎, 1月 3) 坂無淳（2015）「データ分析法——パソコンを使って分析してみよう」立教大学オープンキャンパス・コミュニティ福祉学部体験授業, 立教大学, 8月 4) 武蔵大学非常勤講師

氏名・専門領域	三本松 政之 ●福祉社会学, 地域社会学
論文	柳延希, 三本松政之（2015）「韓国における性的少数者の当事者組織形成過程に関する研究——当事者としての活動家に着目して」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第3号, pp. 39-57.
学内・学外における社会的活動等	1) 科研費助成事業 基盤研究（B）海外学術「韓国の社会的バルネラブルクラス支援にみる実践変革型コミュニティ形成に関する研究」研究代表者（2015年度－2017年度） 2) 葛飾区社会福祉協議会 介護支援サポーター制度運営協議会委員長

氏名・専門領域	柴崎 祐美 ●高齢者福祉, 介護者支援
著書	1) 柴崎祐美（2015）「家族介護と家族介護支援事業の現状と課題」介護保険白書編集委員会編『介護保険白書—施行15年の検証と2025年への展望—』本の泉社. 2) 柴崎祐美（2016）「高齢者福祉サービス総論—老人福祉法と介護保険法」全国老人福祉問題研究会編『高齢者福祉白書』本の泉社. 3) 柴崎祐美（2016）「高齢者福祉と介護保険」芝田英昭編著『増補改訂基礎から学ぶ社会保障』自治体研究社.
論文	柴崎祐美（2015）「要支援者への利用制限がもたらすもの」『住民と自治』Vol. 632, pp.10-13 自治体問題研究所.
資料・研究ノート等	柴崎祐美（2015）「家族介護モデルの多様化と家族介護者支援の課題—介護保険制度施行後15年の「人生案内」の分析を通して」『社会学・社会福祉学研究』145, pp.309-332 明治学院大学.

学会発表	柴崎祐美 (2015)「療養通所介護事業の体制整備・運営状況の現状—重度要介護者の地域生活支援に向けて」日本ケアマネジメント学会第14回研究大会, 横浜, 6月.
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクトⅢ「介護保険施設、事業所の機能を活用した家族介護者支援方策の検討」 2) 洗足こども短期大学 非常勤講師 3) 品川区社会福祉協議会社会福祉士養成コース 講師 4) 港区特別養護老人ホーム等指定管理者候補者選考委員会委員 5) 平成27年度新座市民総合大学 公開講義「介護される人・する人 ともに健康やかに暮らせるまちを作ろう」講師

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会保障論
著書	1) 芝田英昭 (2015/8/10)『日本国憲法の大義』農文協. 2) 芝田英昭 (2016/3/15)『増補改定 基礎から学ぶ社会保障』自治体研究社.
論文	1) 芝田英昭 (2015)「ニュージーランドの現行医療保健制度の問題点と日本への示唆」『賃金と社会保障』第1634号, pp.4-19 旬報社. 2) 堤未果・芝田英昭 (2015)「戦後70年と憲法：貧困大国アメリカに追いついたら「経済的徴兵制」が ³ 」『住民と自治』通巻628号, pp.6-12 自治体問題研究所. 3) 芝田英昭 (2015)「地域医療構想・地域包括ケア：実際より低い医療需要で必要病床を推計し、医療費削減を狙う」『月刊保険診療』通巻1507, pp.36-38 医学通信社. 4) 芝田英昭 (2015)「患者負担増と公的給付抑制：健康自己責任論と医療の市場化は、格差拡大と健康破壊を招く」『月刊保険診療』通巻1507, pp.19-20 医学通信社. 5) 芝田英昭 (2015)「社会保障費抑制と増税：消費税ではなく富裕層と企業の負担増を財源に」『月刊保険診療』通巻1507, pp.53-55 医学通信社. 6) 芝田英昭 (2015)「ニュージーランド社会保障の概要と課題」『コミュニティ福祉研究所紀要』第3号, pp.99-121 立教大学. 7) 芝田英昭 (2015)「医療保険制度崩壊を目指す地域医療構想と保険医療2035提言書」『住民と自治』通巻632号, pp.30-35 自治体問題研究所. 8) 芝田英昭 (2015)「ニュージーランド社会保障の概要と社会福祉改革の歪み」『賃金と社会保障』第1647号, pp.4-24 旬報社. 9) Shibata, H. (2016) "Protecting welfare in Japan - Keeping Article 25 of the Constitution of Japan alive", <i>Bulletin of the College of Community and Human Services</i> , no. 18, pp. 93-116 Rikkyo University.
資料・研究ノート等	芝田英昭 (2015)「戦争の大義 一なき父との語らい」『まなびあい』第8号, pp.90-94 立教大学コミュニティ福祉学会.
学内・学外における社会的活動等	1) 自治体問題研究所理事 (継続) 2) 埼玉県社会保障推進協議会副会長 (継続) 3) 医療生協さいたま生活協同組合・社会貢献補助金選考委員会副委員長 (継続) 4) 社会保障政策研究会主宰 (継続)

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学, 健康栄養学
著書	杉浦克己 (2016)「みんなのスポーツ栄養」『イラストでみる最新スポーツルール'15』pp.16-17, 大修館書店.

論文	1) 杉浦克己（2016）減量・ダイエットの栄養. JATI EXPRESS 51号, pp.20-21. 単著. 2) 杉浦克己（2016）増量・カラダづくりの栄養. JATI EXPRESS 50号, pp.20-22. 単著. 3) 杉浦克己（2015）試合のための栄養. JATI EXPRESS 49号, pp.18-19. 単著. 4) 杉浦克己（2015）食事バランスガイドで食事の基本を知る. JATI EXPRESS 48号, pp. 14-16. 単著. 5) 杉浦克己（2015）エネルギー消費量をみる. JATI EXPRESS 47号, pp.14-15. 単著. 6) 杉浦克己（2015）スポーツ栄養学の考え方. JATI EXPRESS 46号, pp.16-17. 単著.
資料・研究ノート等	1) 杉浦克己（2016）燃やし方にもそれぞれ特徴あり。燃焼系サプリメント総覧. TARZAN, 2016年2月25日号, pp.42-43. 取材. 2) 杉浦克己（2015）パンとカフェと、時々、体操. 立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』, 第8号, pp.195-201. エッセイ.
学内・学外における社会的活動等	<学外委員> 1) 株式会社明治顧問 2) (公財) JOC 情報・医科学専門委員会科学サポート部会員 3) (公財) 日本バレーボール協会科学研究委員会 栄養サポート班 班長 4) 日本体力医学会評議員 5) 日本発育発達学会啓蒙誌「子どもと発育発達」編集委員 6) NPO 法人日本トレーニング指導者協会 (JATI) 参与 7) (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟 指導者養成講習会 8) (公財) 体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会 <学内活動> 1) 立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科長 2) 立教大学ウエルネス研究所所員 3) 立教大学体育会拳法部部長

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発論
著書	鈴木弥生（2016）『バングラデシュ農村にみる外国援助と社会開発』日本評論社（日本学術振興会2015年度科学研究費助成〔研究成果公開促進費〕学術図書による）, pp.1-354.
学内・学外における社会的活動等	文部科学省科学研究費助成基盤研究（C）「グローバルゼーションと国際労働移動：バングラデシュ女性労働者の実態調査」（2014年度～2017年度予定）に基づく実態調査

氏名・専門領域	富田 文子 ●障害者福祉論, 就労支援サービス論, 障害者職業リハビリテーション
資料・研究ノート等	1) 平成27年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害者分野「生活支援による就労の定着の在り方にかかる研究」）（主任研究者 埼玉県立大学 教授 朝日雅也）研究チームメンバー. 2) 文部科学省科学研究費基盤C「重度障害者に対する社会支援に基づく多様な就労形態に関する研究」（主任研究者 埼玉県立大学 教授 朝日雅也）研究委員会委員.
学内・学外における社会的活動等	1) 大田区自立支援協議会共同事務局・就労支援専門部会事務局員 2) 大田区障害者就労支援担当者会議事務局員

学内・学外における社会的活動等	3) 就労移行支援事業所連絡会事務局員 4) 職場体験実行委員会事務局員 5) 第32回大田区就労者激励会事務局員 6) 第36回大田区就労促進懇談会事務局員 7) 平成27年度大田区就労者家族向け講演会事務局員 8) 公開生活講座事務局長（精神障害者担当） 9) 平成27年度大田区就労支援担当者セミナー及び企業見学会事務局長 10) 平成27年度就労移行支援事業所見学会事務局長 11) 平成27年度大田区事業所見学会事務局長 12) 平成27年度就労移行支援事業所説明会・支援者講習会事務局長
-----------------	--

氏名・専門領域	外山 公美 ●行政学
著書	1) 外山公美（2015）「カナダのオンブズマン制度」日本オンブズマン学会編『日本と世界のオンブズマン』第一法規出版. 2) 外山公美編（2016）『行政学（第2版）』弘文堂.
資料・研究ノート等	外山公美（2015）「行政相談委員の業務と日本オンブズマン学会の活動」『季刊行政相談』第146号，pp.2-3.
学会発表	外山公美（2015）「シンポジウム：現代政策課題への処方箋—諸外国におけるジェンダーギャップへの取り組み—」コメンテーター，日本法政学会123回研究会，岐阜聖徳学園大学，11月．
学内・学外における社会的活動等	1) 日本学術会議連携会員 2) 豊島区政策評価委員会副委員長 3) 港区情報公開運営審議会副会長 4) 日本オンブズマン学会理事長 5) 日本行政学会理事 6) 日本地方政治学会理事 7) 日本協働政策学会理事 8) NPO法人政策マネジメント研究所理事長

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論，コミュニティケア論
著書	1) 長倉真寿美（2016）「石巻交流プログラム（宮城県石巻市）」『復興支援ってなんだろう？ 人とコミュニティによりそった5年間』立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室 本の泉社. 2) 長倉真寿美・岡田哲郎・坂無淳（2016）「高齢者福祉、地域福祉の知識や経験を駆使し 実務担当者からの解説」『復興支援ってなんだろう？ 人とコミュニティによりそった5年間』立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室 本の泉社.
論文	長倉真寿美（2016）「地域包括ケアシステム構築過程における情報活用の現状—介護保険サービス利用水準別保険者アンケート調査結果の分析から—」『福祉情報研究』第12号，pp.20-32 日本福祉介護情報学会.
学会発表	長倉真寿美（2015）「居宅4・地域密着型サービス利用指数の保険者別推移と指数「高」の保険者の地域ケアシステムに関する一考察」日本地域福祉学会第29回大会，宮城，6月．
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 2) 豊島区都市計画審議会委員 3) 江東区権利擁護センター「あんしん江東」運営委員会委員長 4) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会委員

学内・学外における社会的活動等	5) (公財) いきいき埼玉 彩の国いきがい大学「若い世代との交流事業」講師・コーディネーター 6) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト（石巻市） 7) 科学研究費助成事業（基盤研究（C））「保険者類型別地域包括ケアシステムの構築方法に関する研究」研究代表者 8) 社会福祉士試験委員
-----------------	--

氏名・専門領域	濁川 孝志 ●心身ウエルネス, 野外環境論
論文	「日本人青年におけるスピリチュアリティ評定尺度の開発」 日本トランスパーソナル心理学／精神医学 15（1）：87-104（2016）.
資料・研究ノート等	「スピリチュアルを語る医師たちの教え—現代科学の限界と命の在り方—」 立教大学コミュニティ福祉学部紀要 第18号 pp.153-171（2016）.
学会発表	The relationship between habits of daily exercise and the tendency of spirituality. 20th European College of Sport Science, Book of Abstract: (2015).
学内・学外における社会的活動等	1) バリアフリー映画上映会 ガイアシンフォニー第1番 龍村仁監督講演（立教大学新座キャンパス） 平成27年7月12日（コミュニティ福祉研究所主催） 2) シンポジウム：「今こそガイアの未来を考える」開催 ガイアシンフォニー第8番上映（龍村仁、榎木孝明、中澤宗幸） 平成27年12月6日（ウエルネス研究所主催）

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●運動方法学, コーチング論
論文	川井謙太郎, 舟崎裕記, 林大輝, 加藤晴康, 沼澤秀雄 投球障害肩における肩関節2nd内旋制限に対するセルフストレッチ方法の比較—即時効果判定— 理学療法科学31（1）：pp.13-17, 2016.
資料・研究ノート等	1) 沼澤秀雄（2015）「ランニングコーディネーショントレーニングの概要」『JFA Technical News』, 日本サッカー協会技術委員会, Vol. 55, pp.46-47. 2) 沼澤秀雄（2015）「ランニングコーディネーショントレーニングの実際①」『JFA Technical News』, 日本サッカー協会技術委員会, Vol. 56, pp.44-45. 3) 沼澤秀雄（2015）「ランニングコーディネーショントレーニングの実際②」『JFA Technical News』, 日本サッカー協会技術委員会, Vol. 57, pp.50-51. 4) 加藤和樹, 繁田進, 東川安雄, 伊藤静夫, 小林敬和, 岩壁達男, 渡部誠, 桜井智野風, 出筒紫乃, 沼澤秀雄, 櫻田淳也, 渡邊将司, 舟橋昭太, 熊原誠一, 豊田裕浩, 平山公紀, 横山巧機（2015）「中学陸上競技者におけるコントロールテスト結果と競技成績の関係」『陸上競技研究紀要』, 公益財団法人日本陸上競技連盟, 第11巻, pp.27-31.
学会発表	沼澤秀雄, 小林敬和, 桜井智野風（2015）「児童期におけるバランス、リズム、タイミングを考慮した室内運動プログラム（BRTプログラム）の開発」第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事長 2) 日本陸上競技連盟普及・育成委員会 委員 3) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 4) 日本キッズアスレティックス協会理事 5) 大学スポーツライミング協会 副会長 6) 日本陸上競技連盟U13クリニック, U16クリニック, 指導者講習会講師 7) IAAF CECS Level1 講師

学内・学外における社会的活動等	8) キッズアスレティックスインストラクター養成講習会講師 9) 日本サッカー協会指導者養成講習会S級, A級U12講師 10) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ
-----------------	---

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治, 行政学, NPO 論
論文	1) 原田晃樹 (2015)「官民役割分担の二面性—サービスの担い手か、自治の担い手か」『都市問題』106巻, pp.17-21. 2) 原田晃樹 (2015)「英国地方自治の危機とレジリエンス: 英国サンダーランド市と中間支援組織の取組から」『にじ: 協同組合経営研究誌』650号, pp. 24-33.
学会発表	原田晃樹 (2015)「コミュニティ・ビジネス概念の変遷と労働統合型社会的企業の可能性」日本協同組合学会大会, 2015年10月3日, 岐阜大学 (岐阜県岐阜市).
学内・学外における社会的活動等	1) 「豊島区立南大塚保育園運営協議会」委員 2) 連合総合研究所「住民自治と社会福祉に関する研究委員会」委員 3) 日本協同組合学会学術賞受賞 (藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著『闘う社会的企業』勤草書房 (2013年3月)) 4) 新座市「子ども・子育て会議」会長

氏名・専門領域	原田 峻 ●地域社会学, 社会運動論, NPO 論
著書	1) 原田峻・西城戸誠 (2015)「県外避難者支援の現状と課題——埼玉県の事例から」関西学院大学災害復興制度研究所・東日本大震災支援全国ネットワーク・福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク編『原発避難白書』人文書院. 2) 原田峻・西城戸誠 (2015)「原発避難をめぐる学術研究——社会科学を中心として」関西学院大学災害復興制度研究所・東日本大震災支援全国ネットワーク・福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク編『原発避難白書』人文書院. 3) 原田峻 (2015)「原発避難関連文献一覧」関西学院大学災害復興制度研究所・東日本大震災支援全国ネットワーク・福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク編『原発避難白書』人文書院. 4) 原田峻 (2016)「新宿交流プログラム・東久留米交流プログラム」立教大学コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援推進室『復興支援ってなんだろう?——人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社. 5) 原田峻 (2016)「県外避難者をどう支援するか——支援者の立ち位置の難しさ」立教大学コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援推進室『復興支援ってなんだろう?——人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社.
論文	1) 原田峻 (2015)「NPO法改正・新寄付税制の政策過程——唱道連合と政策志向的学習の変遷に着目して」『ノンプロフィット・レビュー』第15巻第1号, pp.1-12. [査読有り] 2) 原田峻, 西城戸誠 (2016)「東日本大震災・福島原発事故から5年目を迎えた県外避難の現状と課題——埼玉県における自治体・避難者調査の知見から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第3号, pp.59-78.
資料・研究ノート等	西城戸誠, 原田峻監修 (2016)「福玉便り 2016春の号外」(http://www.hands-on-s.org/fukutama/2016.pdf).
学会発表	原田峻 (2015)「NPO税制をめぐる立法運動の戦略と帰結——『シーズ=市民活動を支える制度をつくる会』を中心に」関東社会学会第63回大会, 千葉大学, 6月.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費補助金（研究活動スタート支援）「ガバナンスのルールをめぐる力学の解明——NPO間の中央－地方関係に着目して」（平成26～27年度，研究代表者） 2) 科学研究費補助金（基盤研究（C））「『強いられた』コミュニティ再編を巡る復興支援と制度に関する比較研究」（平成27～29年度，研究分担者） 3) 関東社会学会 研究委員（2015年7月～） 4) パルシステム埼玉 東日本大震災復興支援助成金運営委員（2015年7月～，委員長） 5) 原田峻（2016）「5年目の東日本大震災・福島原発事故を埼玉で考える——避難者向け情報誌『福玉便り』の活動から」NPO法人都市づくりNPOさいたま つくたま塾，さいたま市生涯学習総合センター，3月 6) 原田峻（2016）「質的調査の教え方／学び方——社会調査実習の経験から」特定非営利活動法人サーベイ 研究会，立教大学，3月
-----------------	---

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●NPO論，社会的企業論
論文	藤井敦史「アカウント3を通して見る英国社会的企業が紡ぎ出す『連帯経済』——参加基盤にあるもの——」『協同組合研究誌にじ』2015年春号（649号），pp.23- p31，2015（単著）。
資料・研究ノート等	PARC制作ビデオ『支え合って生きる——社会的企業が紡ぎ出す連帯経済』監修。
学会発表	藤井敦史「言説空間における労働統合型社会的企業」（2015）日本協同組合学会大会（岐阜大），10月3日。
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本NPO学会理事 2) 社会的企業研究会会長 3) アジア太平洋資料センター（PARC）理事 4) 市民セクター政策機構理事 5) 生協総合研究所評議員

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学，スポーツプロモーション論
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 松尾哲矢（2015）『アスリートを育てるく場>の社会学——民間クラブがスポーツを変えた——』青弓社。 2) 松尾哲矢（2016）『子どもの体力・運動能力がアップする 体づくり運動&トレ・ゲーム集』ナツメ社。
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 松尾哲矢（2015）「スポーツに『理論』が必要な理由」『Sports Japan』No.313，pp.2-3（公財）日本体育協会。 2) 松尾哲矢（2015）「『地域における障害者スポーツの推進』～誰もが楽しめる地域のスポーツ環境を目指して～」『みんなのスポーツ』Vol.38（1），pp.18-19（公財）全国スポーツ推進委員連合。 3) 監物永三，知念かおる，葛西順一，松尾哲矢，佐々木秀幸，笠原一也，鴨門義夫『指導者育成50年のあゆみ—1965～2015』（公財）日本体育協会。
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 村本宗太郎，松尾哲矢（2015）「運動部指導者からみた運動部の「聖化システム」と体罰に関する研究」（一社）日本体育学会第66回学会大会，東京，国士舘大学（世田谷キャンパス），8月。 2) 金子琴美，松尾哲矢（2015）「学校運動部指導者における指導意識の形成過程に関する研究」（一社）日本体育学会第66回学会大会，東京，国士舘大学（世田谷キャンパス），8月。
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公益財団法人大学基準協会大学評価分科会委員 2) スポーツ庁「健康スポーツ課施策等検討会議」委員

学内・学外における社会的活動等	3) 文部科学省スポーツ・青少年局長「スポーツ・青少年局スポーツ振興課技術審査委員会」技術審査専門員 4) (公財) 日本体育協会指導者育成専門委員会 委員 5) (公財) 日本体育協会指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プラン戦略会議 座長 6) (公財) 日本体育協会東京オリンピック・パラリンピック支援室 プロジェクト委員長 7) (公財) 日本レクリエーション協会 理事 8) (公財) 日本レクリエーション協会スポーツ・レクリエーション支援者養成委員会 委員長 9) (一社) 日本体育学会 代議員 10) (一社) 日本体育学会 体育社会学専門領域 事務局長 11) 日本スポーツ社会学会 理事 12) 日本レジャーレクリエーション学会 常任理事 13) 日本スポーツ産業学会運営委員 14) 東京都豊島区スポーツ推進計画策定委員会委員 会長 15) 文部科学省委託 公益財団法人日本レクリエーション協会 「レクで学校丸ごと元気アップ事業」委員
-----------------	--

氏名・専門領域	森本 佳樹 ●地域福祉, 福祉計画
著書	森本佳樹 (2016年3月)『復興支援ってなんだろう? 人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社.
論文	森本佳樹 (2016年3月)「システム論的視点からの地域福祉論確立の試み～今後の課題に向けての視点と考え方の整理～」『コミュニティ福祉学部研究紀要』第18号, pp.221-233 立教大学.
資料・研究ノート等	森本佳樹 (2015年11月)「これからしたいこと」『まなびあい』第8号, pp. 228-231 立教大学コミュニティ福祉学会.
学会発表	日本福祉介護情報学会 第16回研究大会記念シンポジウム コメンテーター「地域における包括的支援推進に向けた個人情報活用のこれまでとこれから ～個人情報保護法改正を見据えて～」, 2015年9月.
学内・学外における社会的活動等	1) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト 委員長 2) 日本福祉介護情報学会 副代表理事・事務局長 3) 日本生命済生会『地域福祉研究』編集委員 4) 厚生労働省社会保障審議会専門委員介護報酬改定検証・研究委員会 委員 5) 総務省「地域実践活動に関する大学教員ネットワーク」幹事 6) 独立行政法人福祉医療機構 WAM NET 事業推進専門委員会 委員 7) 東京都社会福祉審議会 委員 8) 東京都社会福祉審議会 民生委員審査分科会 会長 9) 東京都「都内避難者孤立化防止事業」実施地区連絡会 アドバイザー 10) 山形県高島町地域福祉計画策定委員会 アドバイザー 11) 新宿区社会福祉協議会経営計画推進部会 部会長 12) 江東区社会福祉協議会地域福祉活動計画推進評価委員会 委員長 13) 練馬区社会福祉協議会 地域福祉活動計画 策定推進委員会 委員長 14) 練馬区社会福祉協議会ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会 副委員長 15) 武蔵野市地域包括支援センター運営協議会 会長 16) 武蔵野市地域リハビリテーション推進協議会 委員 17) 立川市地域福祉計画・立川市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会 委員長 18) 立川市社会福祉協議会 スーパーバイザー

学内・学外における社会的活動等	19) 横浜市地域保健福祉計画策定・推進委員会 委員長 20) 石川県津幡町地域福祉計画・津幡町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会 アドバイザー 21) 熊本県水俣市社会福祉協議会 アドバイザー 22) 社会福祉法人にんじんの会 理事 23) NPO法人福祉の資料と情報 代表理事 24) NPO法人コレクティブ 理事 25) NPO法人ケア・センターやわらぎ 理事 26) (株)NDソフト「ケア・ナレッジ・マネジメント研究所」フェロー 27) 2015年度トヨタ財団国際助成プログラム「高齢者の尊厳ある生き方を中心とする生活圏コミュニティ構築の仕組み」アドバイザー 28) 平成27年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）事業 地域包括ケアシステムにおける小規模多機能型居宅介護の今後のあり方に関する調査研究委員会 委員長
-----------------	---

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●ノーマライゼーション論, 障害者福祉論
著書	結城俊哉（2016）『障害者福祉』芝田英昭編著『増補改訂基礎から学ぶ社会保障』自治体研究社.
論文	結城俊哉（2015）「障がい者の芸術的創造性の支援方法に関する障がい者アートの研究」『コミュニティ福祉研究所紀要』第3号, pp.1-18 立教大学コミュニティ福祉研究所.
資料・研究ノート等	1) 結城俊哉（2016）「ケアの実践現場における研究力養成の覚書」『コミュニティ福祉学部紀要』第18号, pp.173-195 立教大学. 2) 結城俊哉（2015）「僕らの世界にとって“かけがえのないもの”とは何か～ジャーナリスト・堤未果氏の著作を通して考える～」『立教大学コミュニティ福祉学会：まなびあい』第8号, pp.102-111 立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局. 3) 結城俊哉（2015）「戦争と福祉をみんなで考える会がめざしていること」全国老人福祉問題研究会編集『月刊：ゆたかなくらし』No.398, pp.14-17 本の泉社. 4) 結城俊哉（2015）「書評：空閑浩人『ソーシャルワークにおける「生活の場モデル」の構築～日本人の生活・文化に根ざした社会福祉援助～』（ミネルヴァ書房）」『ソーシャルワーク学会誌』第30号, pp.115-118 日本ソーシャルワーク学会.
学会発表・講演等	1) 結城俊哉（2015）「ケアという仕事とは何か」第1回調布市福祉人材育成センター創設記念講演, 東京, 7月. 2) 結城俊哉（2015）「ケアという仕事の意味について」社会福祉法人調布市社会福祉事業団主催講演, 立川市社会福祉協議会, 東京, 10月. 3) 結城俊哉（発表コーディネーター）（2016）「現代社会の家族の姿～児童養護・学童保育・小学校の現場から」日本福祉文化学会（関東ブロック研究交流会）東京, 2月. 4) 結城俊哉（2016）「戦争に抗する福祉（ケア）文化の力を考える」国立公民館主催, 東京, 3月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本社会福祉学会『社会福祉学』学会誌編集委員 2) 日本福祉文化学会・東京大会実行委員 3) 調布市福祉人材育成センター運営委員長 4) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会・委員長 5) 首都大学東京・非常勤講師 6) 日本女子大学・非常勤講師 7) 「福祉学科」教務委員・全カリサポーター

学内・学外における社会的活動等	8) しょうがい者（学生・職員）支援ネットワーク委員 9) 科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）「震災後社会におけるレジリエント・コミュニティ構想に向けた基盤的研究」（研究代表者） 10) 公開講演会「ジャーナリスト・堤未果氏＊ワーキングプア層が支える21世紀の戦争」コミュニティ福祉研究所主催（企画運営実施担当者）
-----------------	--

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童・家族福祉、貧困研究、ジェンダー論
著書	湯澤直美（2016）「出会いの軌跡・出逢いの奇跡」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室編『復興支援ってなんだろう一人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社.
論文	1) 湯澤直美（2015）「子どもの貧困をめぐる政策動向」家族社会学研究27（1），pp.69-77 日本家族社会学会. 2) 湯澤直美（2015）「子どもの貧困」とフェミニズム」大原社会問題研究所雑誌（680），pp.9-20 法政大学大原社会問題研究所. 3) 湯澤直美（2015）「母子世帯の子ども死亡事件に見る“女性の貧困”と自助努力の臨界点」歴史地理教育（834），pp.14-21 歴史教育者協議会. 4) 湯澤直美（2016）「地方自治体における子どもの貧困対策：実態把握による貧困の可視化」国際文化研修 23（4），pp.24-29 全国市町村国際文化研修所.
資料・研究ノート等	1) 湯澤直美（2015）「書評 近藤理恵『日本、韓国、フランスのひとり親家族の不安定さのリスクと幸せ』福祉社会学研究（12），pp.127-130 福祉社会学会. 2) 湯澤直美（2015）「子どもにとっての貧困経験と学校教育」学校運営 57（2），pp.12-15 学校運営研究会. 3) 湯澤直美（2015）「子どもの貧困 母子家庭の生活困難には、現代社会の矛盾が凝縮 学校は子供にとってのセーフティネット」総合教育技術 70（3），pp.56-59 小学館. 4) 湯澤直美、西牧たかね（2015）「識者インタビュー 子どもの貧困問題をめぐる誤解と学校・自治体がとるべき対策（特集 生活習慣の劣悪化、低学力、貧困の連鎖 子どもの貧困に向き合う学校経営・学級経営）」総合教育技術 70（5），pp.46-49 小学館. 5) 湯澤直美（2015）「子どもの貧困対策と生活困窮者支援」都市問題 106（8），pp.79-86 後藤・安田記念東京都市研究所. 6) 湯澤直美（2015）「子どもの発達にとって『貧困問題』とは何か（研究委員会企画シンポジウム2）日本教育心理学会総会発表論文集」（57），pp.14-15 日本教育心理学会. 7) 湯澤直美（2015）「女性への暴力と貧困：社会的養護における母子世帯への支援を考える」世界の児童と母性 79，pp.6-10 資生堂社会福祉事業財団. 8) 湯澤直美（2015）「現代の貧困・低所得者の状況」2015『民生委員児童委員必携』pp.3-8 社会福祉法人全国社会福祉協議会. 9) 湯澤直美（2015）「権利保障としての子どもの貧困対策の推進を」『婦人通信』2015年6月号，pp.4-7 日本婦人団体連合会. 10) 湯澤直美（2015）「子どもの貧困の現状」『小学保健ニュース』No.1080，pp.2-3 少年写真新聞社. 11) 湯澤直美（2015）「現代日本における子どもの貧困と社会的排除」『体育科教育』5月号，pp.10-13 大修館書店. 12) 湯澤直美（2015）「支援が必要な子どもの指導 第4回貧困家庭の子ども」『小二教育技術』7／8月号，pp.68-70 小学館. 13) 湯澤直美（2015）「社会の今がわかる情報チェック 日本で増える子どもの貧困」『歯科衛生士』2015年9月号，pp.37-38 クインテッセンス出版. 14) 湯澤直美（2015）「調査結果からみる東京の母子生活支援施設の現状」『平成

資料・研究ノート等	<p>26年度母子福祉部会紀要』pp.73-78 社会福祉法人東京都社会福祉協議会母子福祉部会.</p> <p>15) 「子どもの貧困に対して保育所等は何ができるのか」『会報ぜんほきょう』2015年12月号, 全国社会福祉協議会.</p> <p>16) 湯澤直美 (2015) 「子どもの貧困対策における乳児院の活躍」『乳児保育』第182号, 全国乳児福祉協議会.</p> <p>17) 「子どもの貧困」「現代社会の貧困と家族」『よくわかる現代家族 改訂版』, pp.72-73, pp.170-171 ミネルヴァ書房.</p> <p>18) 湯澤直美 (2016) 「シングルファーザーの就労と経済状況」『シングルファーザー生活実態インタビュー調査報告書』, pp.20-31 川崎市男女共同参画センター (すくらむ21)・シングルファーザー生活実態インタビュー調査プロジェクト.</p> <p>19) 湯澤直美 (2016) 「児童買春・児童ポルノ被害の実態と児童の生活環境」『児童相談所における児童買春・児童ポルノ被害児童への対応状況に関する研究報告書』, pp.101-111 児童相談所における児童買春・児童ポルノ被害児童への対応状況に関する調査研究事業研究会.</p>
学会発表	<p>1) 湯澤直美 (2015) 「子どもの発達にとって「貧困問題」とは何か」日本教育心理学会第57回総会, 朱鷺メッセ, 8月.</p> <p>2) 湯澤直美 (2015) 「ひとり親家庭の貧困と子育て」日本子ども虐待防止学会第21回学術集会にいがた大会, 朱鷺メッセ, 11月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <p>1) 日本学術会議連携会員</p> <p>2) 日本社会福祉学会理事</p> <p>3) 横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定のための策定連絡会委員</p> <p>4) 全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会中央推薦協議委員</p> <p>5) 調布市子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長</p> <p>6) 東京都社会福祉協議会「平成27年度 低所得世帯の子どもへの支援構築プロジェクト」委員長</p> <p>7) 東京都社会福祉協議会「平成27年度 自立生活スタート支援事業運営審査委員会」副委員長</p> <p>8) 社会福祉法人「礼拝会」評議員</p> <p>9) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」理事</p> <p>10) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事</p> <p>11) 一般財団法人「東京都ひとり親家庭福祉協議会」評議員</p> <p>12) 『貧困研究』(明石書店) 編集委員会委員</p> <p>【講演・研修等】</p> <p>1) 宇都宮市教育委員会主催講演会・講師, 宇都宮市, 7月</p> <p>2) ジェンダー平等政策サロン・講師, 市川房枝女性と政治センター, 7月</p> <p>3) 女性の安全と健康のための支援教育センター・支援者養成講座講師, 7月</p> <p>4) 大垣市民生・児童委員協議会研修会・講師, 大垣市, 8月</p> <p>5) 公開シンポジウム「東北の支援現場から知る子どもの貧困」講師, セーブザチルドレンジャパン, 9月</p> <p>6) 全国婦人相談員連絡協議会東京支部・研修会講師, 9月</p> <p>7) 全国市町村国際文化研修所・研修講師, 10月</p> <p>8) 内閣府「地方共助懇談会in群馬」基調講演, 11月</p> <p>9) 平成27年度全国婦人相談員心理判定員研究協議会・基調講演, 10月</p> <p>10) 調布市子ども・若者総合支援事業開始記念講演会・講師, 11月</p> <p>11) 平成27年度東京都児童館等連絡協議会第4ブロック第3回職員研修会・講師, 1月</p> <p>12) 平成27年度青少年育成支援機関に関するブロック連携会議 (中部ブロック), 富山県, 1月</p> <p>13) 足立区人権講演会・講師, 足立区, 2月</p> <p>14) 内閣府子どもの貧困対策フォーラム・基調講演, 内閣府, 3月</p> <p>15) 草加市子どもにやさしいまちづくりフォーラム・講師, 3月</p>

学内・学外における社会的活動等	【研究活動】 1) 平成27年度厚生労働法委託事業「ひとり親家庭及び児童養護施設等における生活状況並びにひとり親家庭の支援施策の自立への効果等に関する調査研究事業」委員 2) 科学研究費助成事業基盤研究 (B)「自治体における包括的子どもの貧困対策の形成・評価に関する研究」研究代表者
-----------------	---

氏名・専門領域	リッチー ザイン ●言語学, 史学
著書	Ritchie., Z (2016) <i>Incorporating Asynchronous Blended Learning into a Japanese University EFL Course</i> . The Proceedings of the 21st TESOL Arabia Conference: Theory. Practice. Innovation. Teaching and Learning in the Digital World. Elshikh, A., Riddlebarger, J., Abu-Rmaileh, S., Al Alami, S (eds). TESOL Arabia Press, Dubai, pp. 75-83.
論文	Ritchie., Z, Imai, S, Mukasa, H, Hashimoto, H, Shinohara, H, Tanaka, K (2016) Students renting bicycles: A critique of the Kawagoe Bicycle Sharing Initiative – An example of project-based learning in a welfare course taught at a Japanese University, Bulletin of the College of Community and Human Services Rikkyo University, no. 18, pp. 117-132.
学会発表	1) Ritchie., Z, “Observations on the Challenges of Educating Children in a Nairobi Slum.”, PANSIG 2015, Kobe University of Foreign Studies. May, 16, 2015. 2) Ritchie., Z, Miller, R., Parrish, M, “Narratives about pitfalls in the academic job hunt”. PANSIG 2015, Kobe University of Foreign Studies. May, 17, 2015. 3) Ritchie, Z, “Self-narrative on a Trip to Nairobi and Observations of Education in a Slum. GILE Forum: Using Narratives for Global Citizenship” PANSIG 2015, Kobe University of Foreign Studies. May, 17, 2015. 4) Ritchie, Z, “Towards the enhancement of resilience in a Disaster Management context; A model of community reconstruction in the aftermath of the Christchurch Earthquakes of 2010-2011” The Law Faculty, Toyo University. January 12, 2016. 5) Ritchie, Z, “Community reconstruction in the aftermath of the Christchurch Earthquakes of 2010-2011” Peace as a Global Language 2016, The Management University of Africa, Nairobi, March 6, 2016. 6) Ritchie, Z, Miller, R, “The Challenges of establishing an ESL program in East Africa” At TESOL Arabia Hyatt Regency Hotel, Dubai. March 12, 2016.
学内・学外における社会的活動等	1) 2015. 7 ケニアのThe Management University of Africaの大学院生プログラム「日本式経営の勉強ツアー」引率 2) 2015. 7 コミュニティ福祉学部主催の国際交流会の担当 3) 2016. 3 ケニアナイロビ市のスラム学校でのテキストのデジタル化に従事, パソコン・ラボ設置 4) 2016. 3 ケニアでのPeace as a Global Language学会とスラム学校ツアーの引率 5) Peace as a Global Language学会委員会員

氏名・専門領域	平野 方紹 ●社会福祉原論, 社会福祉行財政, 福祉サービス供給体制論 social administration, 公的扶助論, 障害福祉論
著書	平野方紹（2016）「福祉行財政の実施体制」蟻塚昌克・関川芳孝編『社会福祉学習双書2016 社会福祉概論Ⅱ—福祉行財政と福祉計画／福祉サービスの組織と経営—』全国社会福祉協議会.
論文	1) 平野方紹（2015）「支援の「狭間」をめぐる社会福祉の課題と論点」『社会福祉研究』第122号（鉄道弘済会）pp.19-28. 2) 平野方紹（2016）「SEMINAR 障害者支援論1—障害者支援の基本的考え方（マクロとしての支援論）—」『さぼーと』第63巻第2号（日本知的障害者福祉協会）pp.42-48. 3) 平野方紹（2016）「SEMINAR 障害者支援論2—個別支援の考え方—」『さぼーと』第63巻第3号（日本知的障害者福祉協会）pp.42-48.
資料・研究ノート等	平野方紹（2016）「NEWS ここまで来ている福祉の変質による障害者の権利侵害と虐待—「虐待」施設が虐待通報職員に名誉毀損で損害賠償請求という異常事態の構図—」『住民と自治』通巻第634号（自治体問題研究所）pp.11-13.
学内・学外における社会的活動等	○主なもの (学内) ボランティアセンター センター長 (学外) 1) 内閣府障害者差別解消地域協議会の在り方検討会委員 2) 文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員（～2015年10月） 3) 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討委員会副委員長 4) 埼玉県総合リハビリテーションセンター運営協議会委員 5) さいたま市障害者政策委員会委員長 6) さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長 7) さいたま市社会福祉法人設立等審査委員会委員 8) 川越市社会福祉審議会委員 9) 新座市障がい者施策委員会委員長 10) 志木市地域自立支援協議会会長 11) 桶川市地域福祉計画策定委員会委員長 12) 新宿区外部評価委員会第2部会長